

シネラ

fiaf

国際フィルム・アーカイブ連盟=FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

2
No-113



チト・ローニョ
監督と

フィリピン映画

収蔵作品特集

現代フィリピン映画の傑作を特集

マグニフィコ

収蔵作品特集

アジアの ドキュメンタリー映画

アジア各国の現代を描く
ドキュメンタリー映画の特集



子象ちゃん



ビッグ・ドリアン

寄贈・寄託映画特集

アーカイブの至宝

寄贈・寄託映画より、特に貴重な作品を紹介



バウダット姫



百年の絶唱

チト・ローニョ監督と フィリピン映画

フィリピンを代表する監督の一人であるチト・ローニョ監督作品を中心に現代フィリピン映画の傑作を特集

2月1日(水)～12日(日) ※休館日・休映日除く
観覧料:500円(大人)400円(大学生・高校生)300円(中学生・小学生)

*定員制・各回入替制 *チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
*障がい者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

バイオレンス 2月 2日(木) 19:00
Rage 2月11日(土・祝) 17:00



1995年/35ミリ/カラー/101分/フィリピン
日本語・英語字幕付き
監督:チト・ローニョ 出演:リチャード・ゴメス、マリセル・ソリアノ

結婚式を間近に控えた女性ルイサは、見知らぬ男にレイプされる。ルイサは精神的なショックから立ち直れず、結婚後も夫のジェイクを拒むのだった。そんなルイサに夫は次第に暴力的になっていく。大ヒットしたバイオレンスアクション。

レイア 2月 2日(木) 14:00
Lea's Story 2月 5日(日) 14:00



1999年/35ミリ/カラー/113分/フィリピン
日本語字幕付き
監督:チト・ローニョ 出演:ウィルマ・サントス、アリエル・リベラ

レイアには子供が二人いたが、父親は別々の男性だった。女性をドメスティック・バイオレンスから救済する施設で働くレイアは、二人の子供と子供の父親との軋轢に苦しみながらも、自分の人生を生きていく。女性の自立をテーマとした作品で、フィリピンを代表する人気女優ウィルマ・サントスがレイアを熟演する。

苦難の時代 2月 1日(水) 14:00
The Seventies 2月 5日(日) 11:00



2002年/35ミリ/カラー/132分/フィリピン
日本語・英語字幕付き
監督:チト・ローニョ 出演:クリストファー・デレオン、ウィルマ・サントス

70年代、アマンダとフリアン夫婦はマニラに住む中流家庭で、長男は大学で共產主義に感化されていた。二男は女の子を妊娠させてしまい、結婚と同時に米軍に入る。三男はジャーナリスト志望、四男は毎日遊び歩いていた。戒厳令が布告された70年代フィリピンを一般的な家庭の視点から描いた社会派の作品。

愛すればこそ 2月 3日(金) 19:00
Because I Love You 2月11日(土・祝) 11:00



1993年/35ミリ/カラー/111分/フィリピン
日本語・英語字幕付き
監督:ロリス・ギレン 出演:ウィルマ・サントス、クリストファー・デレオン

本作の主人公ドルスー・コルテスは実在の人物で、フィリピンで初めてエイズ患者として実名でのインタビューに応じた人物として、フィリピンでは大きな話題となった。エイズへの偏見や、患者を取り巻く問題を描きながら、常に前向きに生きるドルスー・コルテスの姿が、力強く生きる女性として描かれる。

母と子 2月 4日(土) 11:00
Child (劇場公開題「母と娘」) 2月10日(金) 19:00



2000年/35ミリ/カラー/120分/フィリピン
日本語・英語字幕付き
監督:ロー・B・クイントス 出演:ウィルマ・サントス、ジョエル・トーレ

ジョーシは香港で家政婦として働き、家族の家計を支えてきた。しかし6年ぶりに帰国したジョーシのことを、幼い次女は忘れてしまい、長男は成績が悪くなっていた。長女は酒やドラッグに手を出し遊び歩いていた。フィリピンの特徴ともいえる海外契約労働者の問題を正面から描いた作品で、空前のヒット作となった。

アメリカン・アドボ 2月 4日(土) 17:00
American Adobo 2月 9日(木) 19:00



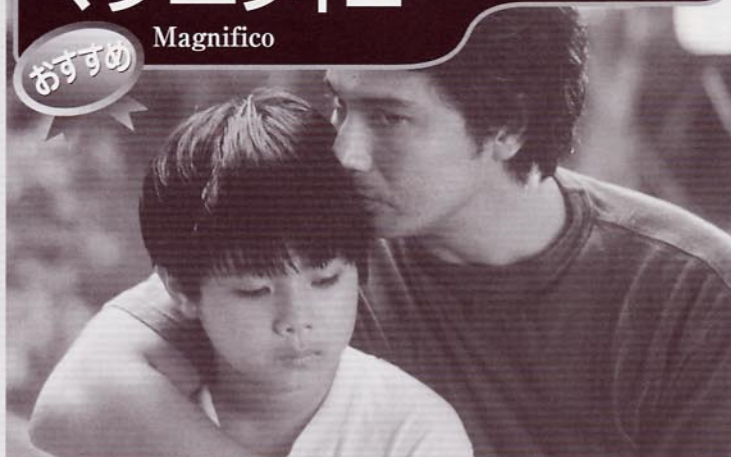
2002年/35ミリ/カラー/104分/フィリピン
日本語・英語字幕付き
監督:ロリス・ギレン 出演:クリストファー・デレオン、リッキー・ダバオ

テレ、マイク、ジェリー、マリーサ、クリスの5人はニューヨークに暮らすフィリピン人。彼らはそれぞれに問題を抱えながらも、折にふれホームパーティーを開き、人生やフィリピンについて語り合うのだった。在米フィリピン人を描いた珍しい作品で、アメリカで初めてロードショーされたフィリピン映画。

マグニフィコ

Magnifico

おすすめ



2月 4日(土) 14:00
2月10日(金) 14:00

2003年/35ミリ/カラー/123分/フィリピン/日本語・英語字幕付き
監督:マリーヨ・J・デ・ロス・レイエス 出演:ジロー・マニオ、アルバート・マルティネス

マグニフィコは9才の少年で、両親は彼をのろまで頭の悪い子だと考えていました。マグニフィコの父親は大工ですが、なかなか仕事がありません。脳性麻痺で言葉がしゃべれない妹、成績が落ちたため奨学金をもらえずマニラから帰ってくる兄、余命いくばくもない寝たきりの祖母、そんな悲惨な家族の現実には耐えきれず母はテレビドラマばかり見ている。ある日マグニフィコは、祖母が死んでも葬式代がないと父と母が喧嘩しているのを知ります。マグニフィコは大好きな祖母のために、カーニバルでジュースを売ってお金を貯めたり、内緒で祖母の棺桶を自分で作ろうとします。マグニフィコの優しさは家族だけでなく、回りの人も彼を助けてあげたくなるものでした。そしてマグニフィコは思いがけない方法で、祖母の葬式代を工面してしまいます。その方法が何なのか、ここで説明はできません。映画を見た方だけの秘密として、この作品の感動をそれぞれの胸に大切にしまってください。隣人を愛し、隣人のために常にベストを尽くすこと、そんな彼に神が奇跡を起こす。そんなキリスト教的な世界観にこの作品は根ざしているのです。マグニフィコを演じるのは日系の少年ジロー・マニオで天才子役と称賛されました。

フロール事件 2月 3日(金) 14:00
The Flor Contemplacion Story 2月11日(土・祝) 14:00



1995年/35ミリ/カラー/123分/フィリピン
日本語・英語字幕付き
監督:ジョエル・ラマガン 出演:ノーラ・オノール、フリオ・ディアス

フロールはシンガポールでメイドとして働いていた。ある日子守をしていたフロールは事故で子供を死なせてしまう。子供の父親はシンガポールの有力者で、フロールは子供を殺害した罪で逮捕されて、フィリピン政府の抗議にも関わらず95年死刑となる。この実話をドキュメンタリー・タッチでサスペンスフルに描いた秀作。

ホセ・リサル 2月 8日(水) 14:00
Jose Rizal 2月12日(日) 14:00



1998年/35ミリ/カラー/175分/フィリピン
日本語・英語字幕付き
監督:マリル・ディアス・アバヤ 出演:セサル・モンタノ、ハイメ・フアラレガス

ホセ・リサル(1861-96)は、フィリピン独立の英雄としてフィリピンでは最も有名な人物。本作はフィリピン独立100周年記念として製作された作品。ホセ・リサルがヨーロッパで出版した本により、帰国して監禁・処刑されるまでを描いている。フィリピン映画史上最高の興行収入を上げる大ヒットを記録している。

昔と今 2月 9日(木) 14:00
Then and Now 2月12日(日) 11:00



2003年/35ミリ/カラー/127分/フィリピン
日本語・英語字幕付き
監督:マリル・ディアス・アバヤ 出演:ディナ・ボネビー、エウラ・バルデス

ジョーイはガンになった母親の世話ををするため、10年ぶりにアメリカからマニラに帰ってきた。彼女の昔の仲間達は暖かくジョーイを迎え入れるのだが、みんなそれぞれ家庭を持ち、子供達の問題に苦勞していた。アバヤ監督が82年に監督した「モラル」の続編ともいえる作品で、20年を経たフィリピン社会とジョーイたちの変化が描かれる。



チト・ローニョ

プロフィール

1960年マニラ生まれ。監督デビューは86年の「Private Show」。手堅い娯楽作品でヒットを飛ばし、社会派の作品の製作にも意欲を持つことで、これまでに30本近い作品を監督している。作品の質と娯楽性を両立したフィリピンで最もポピュラーな監督として現在活躍している。代表作は「バイオレンス」「レイア」「Spirit Warriors」(00年)等。

アジアのドキュメンタリー映画

アジア各国の現代を描く
ドキュメンタリー映画の特集

2月15日(水)~19日(日)

観覧料:500円(大人)400円(大学生・高校生)300円(中学生・小学生)

*定員制・各回入替制 *チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
*障がい者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

2月16日(木)19:00 2月18日(土)11:00



平和の行進

平和の行進 An Army of Peace

1997年/ビデオ/カラー/52分/カンボジア/日本語・英語字幕付き
監督:チェン・ダラブット・コルサ

祈禱師 The Spirit Doesn't Come Anymore

1997年/ビデオ/カラー/38分/ネパール/日本語・英語字幕付き
監督:ツェリン・リタール

「平和の行進」は97年にカンボジアで行われたダンマヤトラ(法の巡礼)を描いた作品で、クメール・ルージュの人々との交流が描かれる。「祈禱師」はヒマラヤの麓のチベット人集落で2000年に渡って代々伝わってきたという祈禱師を描いた作品。祈禱師になることを拒む息子との葛藤が描かれる。

ビッグ・ドリアン The Big Durian

2月17日(金)14:00 2月18日(土)17:00



2003年/ビデオ/カラー/75分/マレーシア
日本語・英語字幕付き
監督:アミール・ムハマト

1987年クアラルンプールで、アダムという下士官が市街でライフルを乱射するという事件が起きる。街はパニックとなり、デマが飛び交い民族や宗教の対立により緊迫した状態が続いた。この映画は様々な民族や立場の違う人にインタビューし、事件の経緯と、現代マレーシアが抱える問題をあぶり出していく。

Ha Ha 上海 Ha Ha Shanghai

2月16日(木)14:00 2月18日(土)14:00



2001年/ビデオ/カラー/76分/香港=アメリカ
日本語・英語字幕付き
監督:クリスティン・チョイ

上海の旧フランス租界。監督の一家は1962年までここに住んでおり、家は母親のものだった。30年ぶりに上海を訪れた監督は、この思い出の家を今誰が所有しているのか調べて、再び買い戻そうとする。ところが監督は役所をたらい回しにされ、権利の所在は不明のままだった。調査の過程で官僚制の不思議さと不条理さが浮き彫りにされる。

2月15日(水)14:00 2月19日(日)11:00



素足でヘラートまで

素足でヘラートまで Barefoot to Herat

2002年/ビデオ/カラー/65分/イラン/日本語・英語字幕付き
監督:マジド・マシディ

子象ちゃん The Catch/Naming Ceremony

1984年/35ミリ/カラー/38分/インド/日本語字幕付き
監督:G.アラヴィンダン

「素足でヘラートまで」は、2001年に始まったアメリカのアフガニスタン空爆で難民となった人々を描いた作品。悲惨で無惨な難民生活を世界に伝えたいという監督の思いが伝わる。「子象ちゃん」は南インドに古くから伝わる象の捕獲方法と、象に名前をつける儀式を描いた作品。

2月17日(金)19:00 2月19日(日)14:00



ゴビを渡るフィルム

ゴビを渡るフィルム A Vanishing Trade

2001年/ビデオ/カラー/23分/モンゴル/日本語・英語字幕付き
監督:T.サランタヤ、D.ツェンドルジ

私は子どもの頃に死んだ I died in Childhood

2004年/35ミリ/カラー/51分/ロシア/日本語・英語字幕付き
監督:ゲオルギー・バラジャーノフ

「ゴビを渡るフィルム」は、モンゴルに点在する村で映画の上映をしながら旅を続ける映写技師を描いた作品。「私は子どもの頃に死んだ」はロシアを代表する映画作家セルゲイ・バラジャーノフについての映画。撮影現場や監督のプライベートな姿がはいまられる貴重な作品。

寄贈・寄託映画特集

アーカイブの至宝

2月22日(水)~26日(日)

観覧料:500円(大人)400円(大学生・高校生)300円(中学生・小学生)

*定員制・各回入替制 *チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
*障がい者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)



当図書館では、個人コレクター、作家、著作権者等からの映像作品の寄贈・寄託を受け入れて来ました。その中より、特にユニークで貴重な作品を選んで紹介します。今回は初公開となる復元版「バクダット姫」は必見です!

海魔陸を行く

2月25日(土)17:00
2月26日(日)14:00



生きた本物の蛸が主役。映画はストーリー仕立てになっており、魚屋の桶から逃げ出した蛸が、様々な危険をかいぐって陸の冒険を続け、最後は海に帰って行くというものの。語った徳川夢声の語りも楽しい。*同時上映「バクダット姫」

1950年/16ミリ/モノクロ/53分/ラジオ映画

監督:伊賀山正徳 脚本:松永六郎
撮影:福田寅次郎 声:徳川夢声

クレイジー・ラブ

2月23日(木)19:00
2月24日(金)19:00



前衛美術家、音楽家、舞踏家らがこぞで参加している本作は、1968年当時の祝祭的な若者文化をその最先端で表現したものであり、まさに「クレイジー」で「ポップ」な傑作。

*R15指定(15歳未満の方は観覧できません)

1968年/16ミリ/パートカラー/90分/岡部プロ

製作・監督・脚本・編集:岡部道男 撮影:川尾俊夫、鎌田勝彦、岡部道男
美術:斎藤司郎 出演:岡部道男、青山マミ、刀根康尚、佐藤重臣

バクダット姫

2月25日(土)17:00
2月26日(日)14:00



おすすめ

1948年/35ミリ/モノクロ
50分/三幸映画社
監督:芦田巖 撮影:川西昭治
作画:福田里三郎 音楽:服部良一

本作は戦後初の劇場用長編アニメであるが、不完全版しか現存していなかった。ところが、欠損していた冒頭部分を含むほぼ完全に近いプリントが、福岡市内の個人コレクター宅より発見された。戦時中、自由な作品製作ができなかったアニメーターたちは、戦後こそぞと動画表現の豊かな可能性を競いはじめた。アラビアン・ナイトを題材にした本作は、その最も輝かしい一本であったろう。手塚治虫はアニメ修行中に本作の製作現場を見学していたという。日本アニメの原点とも呼べるたいへん重要な作品。(復元:東京国立近代美術館フィルムセンター)

冒険者たち

2月22日(水)14:00
2月25日(土)11:00



お笑い&フォークソング・ユニットとして70年代に一世を風靡した「あのねのね」。その清水国明と原田伸郎が主演した本作は、広島宇治港で起きたシージャック事件と、瀬戸内海に眠る財宝探しとを絡めた青春映画の異色作。

1975年/35ミリ/カラー/95分/冒険活劇

監督:白井高潮 脚本:田辺泰志 音楽:J・A・シーガー
出演:清水国明、原田伸郎、黒沢のり子、石橋蓮司

蜃気楼劇場

2月24日(金)14:00
2月26日(日)11:00



1991年、東京汐留に広大な空き地があった。その空き地を一時的に借り、そこに巨大な野外劇場を建設してしまつた劇団、維新派。本作は彼らが劇場を作り、公演をし、そして劇場をあっけなく取り壊し、立ち去るまでの記録。

1992年/16ミリ/カラー/111分/スタンス・カンパニー

監督:杉本信昭 撮影:清水良雄 編集:村本勝
音楽:高橋祐生、内橋和久、木村充輝(憂歌団) 出演:維新派

百年の絶唱

2月23日(木)14:00
2月25日(土)14:00



本作は、90年代屈指の映画と評されているが、8ミリゆえに上映が限定されたまま今に至っている。今回は当館が作製した16ミリ版を初公開。うち棄てられた「物」や「土地」に宿る怨念を描いた、痛切な魂の物語。

1997年/16ミリ/カラー/87分/スピリチュアル・ムービー・フィルム・プロダクション

監督・脚本:井土紀子 撮影:西原多志、高橋和博 録音:菊地信之
出演:平山寛、葉月里、佐野和宏、坪田鉄矢

栗島すみ子特集

サイレント期に映画界のクイーンと呼ばれた栗島すみ子主演作2本を上映。「夜ごとの夢」は成瀬巳喜男監督生誕100年を記念した、サイレント時代の代表作の一本。「ほととぎす(不如帰)」は成瀬が助監督として師事した池田義臣監督の代表作である。

3月12日(日) 14:00

観覧料:1,000円(事前の申し込みが必要)

上映作品

「ほととぎす(不如帰)」

1922年/16ミリ/モノクロ/サイレント25分/松竹
監督:池田義臣/出演:栗島すみ子、岩田祐吉

「夜ごとの夢」

1933年/35ミリ/モノクロ/64分/サイレント/松竹
監督:成瀬巳喜男/出演:栗島すみ子、斎藤達雄
弁士:澤登翠/楽団:カラード・モノトーン

●申し込み方法

往復ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、「栗島すみ子特集」観覧希望と記入の上、下記まで応募して下さい。お一人様往復ハガキ一枚で応募して下さい。

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館映像資料課宛

●応募の締め切り

2月24日(金) 必着です。

※応募多数の場合は抽選になります。

次号予告

特別企画

成瀬巳喜男監督映画祭 第二部

日本を代表する監督で女性映画の巨匠、成瀬巳喜男監督の生誕100年を記念して代表作を上映する第二部。

3月1日(水)~11日(土)

●上映作品

「女人哀愁」「おかあさん」「放浪記」
ほか6本収蔵作品特集
レイス・チェリック監督と
トルコ映画特集

トルコを代表する監督の一人レイス・チェリック監督を中心にトルコ映画の秀作を特集

3月15日(水)~21日(火・祝)

●上映作品

「メルセデス、わが愛」「そこに光を」
「グッバイ・トゥモロー」
ほか3本

チ・ローニョ監督とフィリピン映画

[14:00] 苦難の時代

[14:00] レイア

[19:00] バイオレンス

[14:00] フロール事件

[19:00] 愛すればこそ

[11:00] 母と子

[14:00] マグニフィコ

[17:00] アメリカン・アドボ

[11:00] 苦難の時代

[14:00] レイア

休館日

休映日

[14:00] ホセ・リサル

レイア

[14:00] 昔と今

[19:00] アメリカン・アドボ

[14:00] マグニフィコ

[19:00] 母と子

[11:00] 愛すればこそ

[14:00] フロール事件

[17:00] バイオレンス

[11:00] 昔と今

[14:00] ホセ・リサル

休館日

休映日

[14:00] 素足でヘラートまで/子象ちゃん

[14:00] Ha Ha 上海

[19:00] 平和の行進/祈禱師

[14:00] ビッグ・ドリアン

[19:00] ゴビを渡るフィルム/私は子どもの頃に死んだ

[11:00] 平和の行進/祈禱師

[14:00] Ha Ha 上海

[17:00] ビッグ・ドリアン

[11:00] 素足でヘラートまで/子象ちゃん

[14:00] ゴビを渡るフィルム/私は子どもの頃に死んだ

休館日

休映日

[14:00] 冒険者たち

[14:00] 百年の絶唱

[19:00] クレイジー・ラブ

[14:00] 蟹気楼劇場

[19:00] クレイジー・ラブ

[11:00] 冒険者たち

[14:00] 百年の絶唱

[17:00] バクダット姫/海魔陸を行く

[11:00] 蟹気楼劇場

[14:00] バクダット姫/海魔陸を行く

休館日

休館日

アーカイブの至宝



冒険者たち



蟹気楼劇場



海魔陸を行く

INFORMATION

■ ホームページ「うえぶシネラ」を開設しました。

今月の特集記事や、上映案内など、映像ホール・シネラの情報を掲載しているほか、シネラニュースもダウンロードできます。また、メールマガジンの会員も募集しています。是非、ご覧ください。

●うえぶシネラ
アドレス<http://www.cinela.com>

■ 公共交通機関ご利用のお願い

駐車場は図書館利用者の共用であり、映像ホール専用の駐車場はありません。駐車スペースに限りがあり、常時混雑しておりますので、長時間の駐車はご遠慮いただいております。できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。土日祝日のご利用や1日に複数回の映画をご覧いただく場合などは、特にご協力いただきますようお願いいたします。

■ 交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス: *天神~都市高速線由~福岡タワー南口(所要時間: 昼間で約20分)*博多駅~都市高速線由~福岡タワー南口(所要時間: 昼間で約25分) 福岡タワー南口バス停から徒歩3分。いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので、大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

福岡市総合図書館
映像ホール・シネラ

〒814-0001
福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館
(代表) 092(852) 0600
映像資料課 092(852) 0608
FAX 092(852) 0609
福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ
ホームページアドレス
<http://www.cinela.com>